

くらしにやさしい街 … 志木、よりよい環境を未来に残すために

エコシティ志木通信

2021年3月1日
(No. 101)

2021
*
3月

NPO法人エコシティ志木
代表理事 天田 眞
〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108

<http://kappa-no.net/eco-shiki/>



写真：天田 眞

志木につらなる川の風景 (29)

新河岸川 (田谷堰)

前号の仙波河岸跡から、台地の縁に沿って上流に向かい、川越城跡の東側から氷川神社の北側へと延びている新河岸川は、1934（昭和 9）年に開削された川。川越市街地の西側から流れて来て、北から東へと水田地帯を流れて伊佐沼へ流入していた赤間川（入間川の笹井堰で取水した農業用水）と接続された。赤間川の水が新しい新河岸川に流れるようになったので、用水が不足した水田地帯のため、1938（昭和 13）年に田谷堰を築造し、そこから3本の用水を取水した。堰は現在使われていないが、下流側に一体化された田谷橋は健在。この地点は武蔵野台地の最北端の地でもある。（3ページ参照）（天田 眞）



冬の柳瀬川

青木 明雄

「志木の自然観察（冬）～柳瀬川の野鳥～」が、非常事態宣言の為、中止となってしまいましたので、柳瀬川の状態を、ご報告させていただきます。

高橋から栄橋まで、浚渫工事が行われています。川の両岸がコンクリート壁（カミソリ堤防）で囲まれている部分です。高水敷に堆積した土砂も取り除き低くしています。今は、緑が全くなくなり、砂埃がたつグランドのような河川敷となっています。また、重機搬入や、土砂搬出用ダンプの為に、富士見橋から高橋までの河川敷には、鉄板が敷かれています。鳥たちにとっては、とっても劣悪な環境となっています。冬の鳥たちはどうなるのだろうか、心配でしたが、いつものように、やってきてくれました。ホッとしています。

年々増えてきたのは、オオバンです。最近では、数十羽の群れでいることもあります。柳瀬川でオオバンを見たのは、2013年12月が初めてです。その時は、3羽でした。以来、毎年やってきて、今年は、多い時には、100羽近く見ることもありました。雑食性で、河川敷に上がって、よく草を食べていますが、今年は草がないため、川の中に潜って餌をとっている姿をよく見かけました。これまで、柳瀬川の主のようだったヒドリガモは、オオバンに主役を奪われた格好になってしまいました。ただ、オオバンは1月がピークで、2月には8・9割がいなくなり、再びヒドリガモの天下となっています。コガモも工事中の状況でも、いつもと同じようにたくさんやってきています。キセキレイやセグロセキレイなどもいつも通りにやってきています。

1年中棲みついているカルガモやアオサギ・ダイサギ・コサギは、工事区域においても、作業中の場所を避けながら、川で餌を捕っていました。カイツブリも棲み処にしていた草むらが無くなってしまった後も、同じ場所の周辺で、川に潜って魚を捕っていました。水辺のイソシギやハクセキレイ・イカルチドリも、工事を避けながら歩き回っていました。一安心です。冬にやってくるカモの仲間たちの中で、オナガガモが、年々減ってきています。今年は、10羽に満たない数しか確認できませんでした。少し心配をしています。

夏になれば、多少草も生え、来年も沢山の鳥たちがやってくるのを楽しみにしたいと思います。

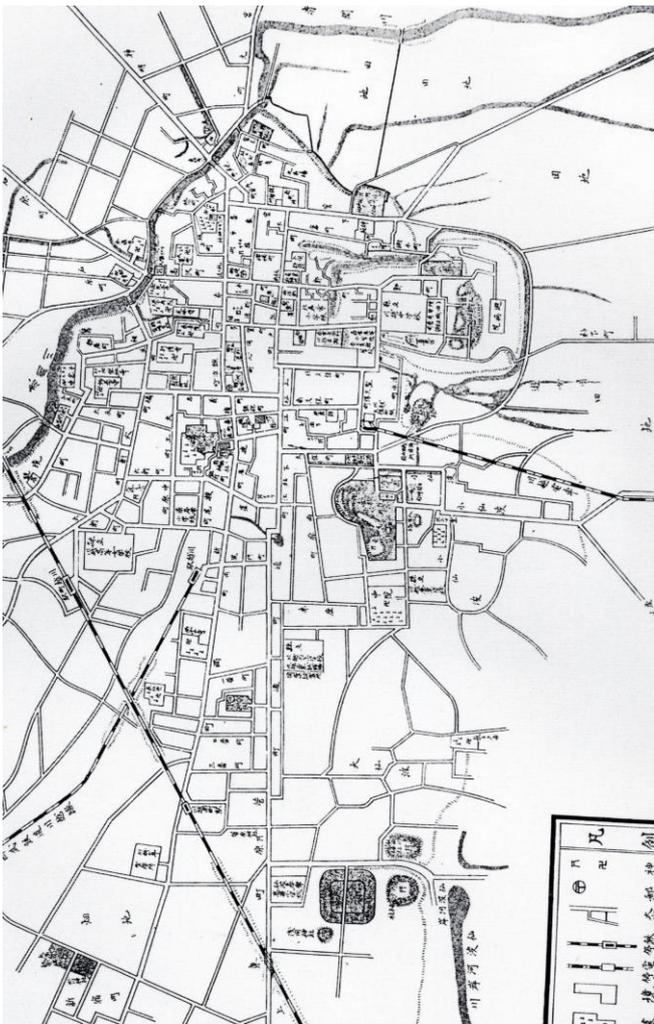


新河岸川のあらまし（5）

舟運時代～昭和初期の新河岸川上流

新河岸駅から東へ10分ほど歩いて新河岸川に出たところが旭橋で、その右岸が川越五河岸の中心となった新河岸の場所。舟運が始まったころは、北東方向の伊佐沼から流れてきた川がこの場所で台地に接し南に向きを変えていました。その後、台地に沿って新河岸から北に川を掘り広げ扇河岸を開設。明治12年には、さらに北に掘り進め仙波河岸を開設しました。以上は前号で扱ったところです。

下の左側の地図（大正13年）を見ると、右下に仙波河岸があり、そこから南側に向かって川が流れ出しているのがわかります。川の傍らには仙波河岸川と書いてありますが、これが当時の新河岸川の最上流にあたります。



最新川越市全図 大正13（1924）年より

新河岸川と赤間川の接続

右側の地図（昭和16年）を見ると、仙波河岸から北に向かって川が延び、市街地の西側から北側に向かって流れていた別の川『赤間川』に接続されています。この部分は1934（昭和9）年に開削された川で、以後、新河岸川には赤間川の水が流れるようになりましたが、当時はこの新川は新赤間川と呼ばれました。

赤間川は江戸時代に開削された農業用水で、入間川の笹井堰で取水され、入間市・狭山市・川越市と流れ、最後は川越市街地東方の伊佐沼に流れ込んでいました。新川開削により用水が流れなくなった地域のため、1938（昭和13）年に接続部分に田谷堰と3本の取水口がつけられました。（表紙参照）（天田 眞）



川越市全図 昭和16（1941）年より

町割りから都市計画へ ～絵地図で見る川越の都市形成史～（川越市立博物館企画展図録）より

西原ふれあい第三公園の手入れ（冬）

竹野 延枝

冬の西原の作業のイメージは、何と云っても落ち葉掃きですが、その集めた落ち葉を囲っておくのが「落ち葉囲い」です。「落ち葉囲い」見たことがありますか。西原は、斜面が多いので、「落ち葉囲い」も斜面を利用して作ります。西原の「落ち葉囲い」は、全部西原に生えている物でできています。伐採された太い枝を何箇所か斜面に差し込み、その間に枝を渡し、隙間を竹や笹、小枝で埋めて作ります。文章ではうまく説明できませんが、びっくりするほどアートです。これが斜面林の中の遊歩道の一部にもなっています。囲が一杯になったらどうすると思いますか。人が乗って踏み固めます。この作業が体力作りにもってこいなのです。踏めば踏むほど、落ち葉は、どんどん嵩が減っていきます。踏んでいる落ち葉の感触が何とも言えません。夢中になって踏んでいると、うっすら汗も滲んできます。こうして踏まれた落ち葉が、下の方から腐葉土になって、また土に還っていきます。自然は、本当に無駄なく循環しているのです。

ところで、アスファルトに落ちた葉は、どうなるのでしょうか。道路清掃の人が集めてポリ袋に入れて、ゴミとして出されます。ゴミです。ゴミを燃やすには、もちろんエネルギーも使われ、二酸化炭素も排出されるわけです。

西原の冬の魅力は、落ち葉掃きの作業だけではありません。葉を落とした木々の姿を見るのも楽しい事です。目に付くのは、何と云ってもケヤキです。枝をスクッと天に向けて延ばしています。ケヤキの木は、それぞれ違っているのに。でもみんなケヤキの形をしているのが、不思議です。当たり前といえば当たり前なのですが。いろいろな作業は、自然と自分の係わりをより深く気付かせてくれるような気がします。

非常事態宣言が出され、西原に作業に行く機会がなくなり、西原（自然）との関わりがとても大切な事だと、改めて感じられるこの頃です。西原に散歩に行ってみてください。三密とはかけ離れた世界が広がります。家に居て閉じ込められていた気持ちが解放されてほっとします。もちろん、一人か二人で。エコシティ志木通信が発行される頃には、西原の活動が再開されているといいのですが。



[写真：青木 明雄]

「こもれびのこみち」の手入れ作業

鈴木 民雄

私たちが行っている「里山の手入れと観察」のうちの一か所である「こもれびのこみち」の手入れ作業について報告します。現在（2月中旬）は、残念ながら緊急事態宣言継続のため、活動は中止。本号が発行される頃には再開されているようお願いいたします。

集合は「こもれびのこみち」の東屋。市の改修工事により、足場や柵などすっかり新しくなりました。作業は、通路にはみ出しているササや枝を払い、溜まった落ち葉を掃除したりしています。崖上の田子山富士塚やマンションとの間の通路も巡回します。崖の斜面は市内に残された貴重な斜面林。ムクノキ、ケヤキ、エノキ、クヌギ、ミズキ、ウワミズザクラなどが生い茂り、林床にはシャガ、ササ類などが生えています。林内に適度に日が差し込むように、常緑のアオキ、シロダモ、シュロなどを間引く作業もあります。斜面林での作業はトンボ池から新河岸川の土手に沿って朝霞市境付近まで行っています。掃除で集めた落ち葉や作業によって発生した切り枝は、斜面林に柵を作って溜め、斜面が崩れるのを防ぐとともに、自然に朽ちさせる（自然に還す）ようにしています。力技ですので、主に秋から冬の作業です。これと合わせて、ゴミ拾いももう一つの重要な作業となります。通路や土手はもちろん、斜面林の中にあるゴミも。プラスチック類やペットボトル、カン、ビン、その他不燃物など相当の量に（残念ながら）。しかし、最近では以前よりは減ったように思いますので、さらに少なくなるように願っています。毎回拾ったゴミは目立たない場所に仮置きし、まとめて分別の上、市に処分してもらっています。

トンボ池の付近には湧き水があり、武蔵野台地縁辺の湧き水の一つです。水質はとてもきれいで、たまにサワガニを見かけることもあります。トンボ池にはシオカラトンボなどが飛んでいます。春になるとたくさんのオタマジャクシが見られます。時には新河岸川からカルガモもやってきます。目立ちませんが種々のシダが生えており、個人的には非常に興味深いです。また、ツリフネソウ、キツネノカミソリという貴重な植物見られます。

いつも5、6名ですが、会員以外の方の参加もあり、作業の合間、皆さんとの会話は楽しいものです。身体を動かすことでリフレッシュ、皆さんご一緒しましょう。



[写真：青木 明雄]

SDGsとは、2015年9月の国連サミットで採択された、『国連加盟国193カ国が2030年に向けて解決すべき課題と具体的な国際目標』です。

【S】とは Sustainable (持続可能な)・・・全ての人の未来が豊かで幸せであり続けること、
【D】とは Development (開発)・・・問題を解決し、安心して暮らせるようにすること、
【Gs】は Goals (目標)です。

貧困・気候変動・差別等、世界が直面する様々な地球規模の問題を解決するため、『誰ひとり取り残さない』との共通理念のもと、SDGsでは17の目標が設定されていますが、具体的には以下のとおりです。

1 貧困をなくそう

目標1：貧困をなくそう
世界中の、あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる

10 人や国の不平等をなくそう

目標10：人や国の不平等をなくそう
国と国との間にある不平等や、国の中での不平等を減らす

2 飢餓をゼロに

目標2：飢餓をゼロに
飢餓をなくし、必要な食料が得られるよう保障し栄養状態を良くし、持続可能な農業を進める

11 住み続けられるまちづくりを

目標11：住み続けられるまちづくりを
・まちや人々が住んでいる所を、誰もが受け入れられ安全で、災害に強く、持続可能な場所にする

3 すべての人に健康と福祉を

目標3：すべての人に健康と福祉を
あらゆる年齢の全ての人々が、健康で、安心して満足に暮らせるようにする

12 つくる責任 つかう責任

目標12：つくる責任 つかう責任
持続可能な方法で生産し、そして消費する

4 質の高い教育をみんなに

目標4：質の高い教育をみんなに
誰もが平等に質の高い教育を、誰もが生涯にわたってあらゆる機会に学習できるようにする

13 気候変動に具体的な対策を

目標13：気候変動に具体的な対策を
気候変動や、それによる影響を止めるために、すぐに行動を起こす

5 ジェンダー平等を実現しよう

目標5：ジェンダー平等を実現しよう
・全ての人々が性別を理由に差別されないようにし、全ての女性や女の子に力を与える

14 海の豊かさを守ろう

目標14：海の豊かさを守ろう
持続可能な開発のために、海や海の資源を守り、持続可能な方法で使用する

6 安全な水とトイレを世界中に

目標6：安全な水とトイレを世界中に
・水と衛生的な環境をきちんと管理して、誰もが水と衛生的な環境を得られるようにする

15 陸の豊かさを守ろう

目標15：陸の豊かさを守ろう
陸の生物多様性を守り、持続可能な方法で利用、森林を管理し砂漠がこれ以上増えないようにする

7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに

目標7：エネルギーをみんなにそしてクリーンに
・価格が安く、安定して発電できて、持続可能で近代的なエネルギーを全ての人々が使えるようにする

16 平和と公正をすべての人に

目標16：平和と公正をすべての人に
平和で誰もが受け入れられる社会、誰もが司法を利用でき、排除されない持続可能な社会をつくる

8 働きがいも経済成長も

目標8：働きがいも 経済成長も
自然が守られ、経済成長を進め、全ての人々が働きがいのある人間らしい仕事ができるようにする

17 パートナーシップで目標を達成しよう

目標17：パートナーシップで目標を達成しよう
目標達成のために必要な行動や方法を強化し、持続可能な開発に向けて世界の国々が協力する

9 産業と技術革新の基盤をつくろう

目標9：産業と技術革新の基盤をつくろう
強靱なインフラを整備し、持続可能な経済成長を進め、新しい技術を生み出しやすくする



SDGs を象徴するカラーホイールアイコンで17個の目標アイコンの17色が円形にデザインされている。バッジにも採用されている

SDGs では『環境保護』が大きな柱のひとつとなっています。その重要性をわかりやすく示したのが、右の図、『ウェディングケーキ図』です。17 個の目標は【経済】【社会】【(自然)環境】の三つに分類されています。

そして、【経済】は【社会】に、【社会】は【(自然)環境】に支えられています。

すなわち、【(自然)環境】は、私たちの生活を支える重要な基盤となります。

基盤となる【(自然)環境】が破壊されれば、社会は不安定になり、経済成長どころではないということになります。



資料：Stockholm Resilience Centre

・・・エコシティ志木の事業活動と SDGs 目標との関連性・・・

[1] 里山の手入れと観察

斜面林が残る市内 2 ヶ所の公園で、樹木の手入れ、落ち葉清掃、雑草取り、ゴミ拾い、時にはミニ観察会などを行っている。



[2] 川の美化活動

柳瀬川や新河岸川の河川敷で、上流から流されてきたり、風で飛ばされたり、捨てられているゴミ拾いを行っている。



[3] 外来種駆除

いろは親水公園のヨシ・オギ群落保全地や柳瀬川河川敷で、外来植物のオオブタクサやアレチウリの駆除を行っている。



[4] 調査・研究事業

市内の 3 河川で定期的に水質検査、柳瀬川で捕らえた魚や水辺の生きものを水槽に入れて土手で展示、市内の野草・樹木・昆虫・鳥などを観察・記録、また「志木生きもの図鑑」を発行している。



[5] 自然観察会

市民に呼びかけて、季節に合わせた野草や鳥などの自然観察会を実施したり、子供を対象にしてカヤネズミの巣を探すイベントや、柳瀬川での魚釣り体験を行っている。



[6] 学習・教育事業

小学校の環境学習や市民向け講座への講師派遣、ボランティア体験者の受入れ、各種イベントへの参加・出店による啓蒙活動を行っている。



※ NPO 法人 エコシティ志木は SDGs を支援しています。

志木の生きもの調査

庭野 恵子

2020年は、世界中の誰にとっても忘れることのできない年となってしまいました。当NP0でも、3月の小中学校の臨時休校要請、4月5月の緊急事態宣言下の外出自粛要請下、さまざまな活動を中止、年が明けて1月18日の志木ニュータウン、および、2月15日の西原ふれあい第三公園の生きもの調査も、再度、緊急事態宣言発令中のため中止となりました。

～12月7日 柳瀬川と水谷田んぼ～参加者：8名

この回はまさに小春日和となり、中止となった回を補うかのように、盛りだくさんな観察会となりました。

水谷田んぼの水路沿いの道路では、ハクセキレイが、かなりの距離、我々の2-3メートル先をチョコチョコと歩いては立ち止まり、まるで道案内をしてくれているようでした。また、思わず声を上げてしまったのですが、指ほどの太さの黒い芋虫(スズメガの幼虫)が道をゆっくりと横切っていました。

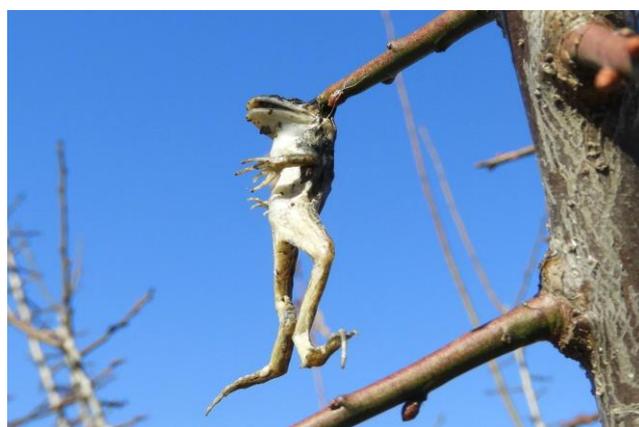
水路脇の梅数本が植えられている場所では、以前の同時期の観察会でもドジョウやケラ、バッタなどのいわゆる「モズの早贄(ハヤニエ)」を観察したことがありましたが、今回はカエルやコオロギのギョツとするような早贄を見ることに。眼が慣れてくると、あちらこちらの枝に器用に刺されたカエルを見つけることができました。カエルたちにはかわいそうですが、食物連鎖に思いを巡らせました。当日はモズの姿はありませんでしたが、後日、メンバーが通りかかったところ、モズを見かけたということです。

田んぼから柳瀬川左岸土手に登る手前には、枯れたオオブタクサの茎を裂いて、小さな黄白色の幼虫を丹念に集めている方々がいました。鮎釣りの餌にするとのことで、釣り人にとっては常識なのかもしれませんが、たくましきサピエンスの知恵に驚かされました。図鑑によると、ブタクサ、オオブタクサなどのキク科の植物の枯れた茎内で終齢幼虫が越冬するスギヒメハマキのようです。富士見橋から川を覗き見ると、黒々と集まったアユの魚影を見ることができました。

また、ラッキーなことに、田んぼではキジを見、富士見橋では、橋の下から下流に翔んでゆくカワセミをしばらく目で追うことができました。

工事中で多くはないですが、ヒドリガモ、コガモ、カルガモ、マガモ、コサギ、アオサギ、カワウなどの野鳥も確認。

人間界は緊急事態でも、自然界は変わらず、むしろ、鬼(?)の居ぬ間に着実に命をつないでいるように見えます。



[写真：青木 明雄]

①ナンキンハゼ [庭野 恵子]
12月16日 いろは親水公園

②婚姻色のカワウ [畠 光男]
12月12日 柳瀬川

③ヒトヨタケ [天田 眞]
12月15日 西原斜面林

④フタスジヒラタアブ幼虫 [天田 眞]
1月6日 西原斜面林

⑤ヒヨドリ [青木 明雄]
1月26日 新河岸川

⑥キセキレイ [畠 光男]
2月3日 柳瀬川

⑦コサギ [畠 光男]
2月3日 柳瀬川

⑧ツグミ [畠 光男]
2月8日 柳瀬川

⑨ハクセキレイ [畠 光男]
2月8日 柳瀬川

⑩カイツブリ [青木 明雄]
2月8日 柳瀬川



①ナンキンハゼ



②婚姻色のカワウ



③ヒトヨタケ



④フタスジヒラタアブ幼虫



⑤ヒヨドリ



⑥キセキレイ



⑦コサギ



⑧ツグミ



⑨ハクセキレイ



⑩カイツブリ

会員紹介 宇津木 美恵子さん

私とエコ志木との出会いは20年ほど前のことでした。平成13年刊行の「柳瀬川の野草」の作成委員になり、埼玉県生態系保護協会やエコシティ志木に入会しました。さらに「河童のつづら」の命名にも関わった気がします。最近はエコ志木通信の愛読者とともに会計監査をさせて頂いています。

子育ても終わり、今はもっぱら、アウトドアで遊び回っています。

最近の登山は尾瀬の燧ヶ岳と至仏山、屋久島、乗鞍岳。頂上から望む下界の景色に毎回感激。

サイクリングで自宅より箱根、日光、軽井沢、犬吠埼、いわきなどへ数日かけて走り、利根川、荒川、江戸川などの河川サイクリングロードを走破して満足。輪行での九州のやまなみハイウェイ、瀬戸内海のしまなみ海道の遠征も懐かしい思い出。ウォーキングで山手線一周、丸ノ内線や都電沿い歩き、玉川上水や石神井川、神田川歩きなど、歩く充実感を楽しまます。カヤックは那珂川、熊野川、四万十川、釧路川などで日本の川の魅力を肌で感じます。マングローブ林や珊瑚礁、佐渡や奥松島を漕ぎ、日本の海の多様さに感動。スキーからスノボへ転向し、上越、白馬、栂池、トマム、ルスツ、富良野、蔵王、と白銀の世界に魅了。沖縄の八重山諸島、慶良間諸

島、伊豆七島、伊豆半島、小笠原諸島などでのシュノーケリングは海の生き物たちとの出会いが新鮮です。鉄道旅で、青春18キップで東京駅から鹿児島駅まで全て普通列車を乗り継いで30時間ほどかけて到達。新幹線を見返してやりました(笑)

こんなわけで、身近な志木の自然を知らないという事実を告白してしまいました。

エコ志木会員としての身分を自覚しなくてはいけない!・・・と大いに反省していますので、どうぞお許し下さいませ。



☆会員状況

2020年更新済（2月17日現在）
 正会員（個人） 45（内、新入会員1）
 正会員（団体） 3
 賛助会員 2

★本会の財政基盤は、会員の方の年会費が頼りです。

★2020年度の年会費は、郵便振替（振替番号 00510-4-13225）にて納入をお願いします。

■当会の団体正会員

志木おやこ劇場
 生活クラブ生協志木支部
 むさし証券株式会社

■当会の団体賛助会員

慶應義塾志木高等学校

■当会が参加している団体
 ネットワーク

登録制度、及び協力団体

志木おやこ劇場
 いろは遊学館利用者の会
 志木市コミュニティー協議会
 志木市社会福祉協議会
 認定NPO法人さいたまNPOセンター
 柳瀬川流域ネットワーク
 新河岸川水系水環境連絡会
 新河岸川流域川づくり連絡会
 彩の国南西部地域NPO連絡会
 川の国応援団
 埼玉県生物多様性保全活動団体登録
 彩の国みどりのサポーターズクラブ
 志木市公園美化活動会
 志木市教育サポートセンター

情報満載！
 当会のホームページ

NPO法人エコシティ志木
<http://kappa-no.net/eco-shiki/>
 志木まるごと博物館河童のつづら
<http://kappa-no.net/>

1. エコシティ志木のパンフレットについて

これまで、エコシティ志木の活動を紹介するパンフレットがなかったため、検討を進めてきましたが、入会申し込み等を入れると1枚に納めるのに工夫が必要となる事と、枚数を増やすと印刷コストが嵩むことから、必要性も含めて、更なる議論が必要な状況です。ただ、エコシティー志木の活動案内だけでもまとめたものをとということで、A4カラー両面印刷のものを作成しました。今回は、通信に同封しましたので、ご利用ください。

2. 通信のカラー化について

広報部会で、意見交換してきました通信のカラー化につきましては、費用等の課題もあり、当面見送りとさせていただきます。通信をカラーで見たい場合には、エコシティ志木のHPに、掲載しておりますので、必要に応じてご参照ください。また、HPからの印刷も可能ですのでご利用ください。引き続き部分的なカラー化などの工夫も検討していきたいと思えます。

3. 来年度のイベント活動について

緊急事態宣言の期間中は、今後も活動を中止とします。緊急事態宣言期間以外においても、引き続き新型コロナウイルス感染防止対策を十分取りながら活動を実施します。イベントカレンダーを確認の上、ご参加ください。

①カヤネズミ原っぱの外来植物駆除

外来植物駆除作業を行う前に、30分程度全体の状況を観察します。今後の対応に役立てたいと思えます。

②里山の手入れと観察

「西原ふれあい第三公園」と「こもれびのこみち」の作業をそれぞれ月1回増やしましたが、毎月のイベントがかなり負担となっているため、元に戻します。

③柳瀬川の外来植物駆除

②と同様の理由から取りやめとします。

④志木の生きもの調査

②と同様の理由から柳瀬川水族館を実施する月は、行わないこととします。

⑤子供向けイベントについて

「柳瀬川であそぼう」及び「カヤネズミの巣をさがそう」につきましては、従来通り実施します。

長らく続けた連載は今回で終了することになりました。最後は、主な『目』(生物分類で『科』の上位)でまだ取り上げてなかったハサミムシ目とゴキブリ目からです。

ハサミムシの仲間は、地表の石・朽木などの下や物陰、落葉の中などにおいて、小動物やその死骸などを食べます。尾部にハサミがあるのが共通ですが、大きさや形は種により異なり、威嚇や虫を捕らえるときに上手に操ります。産卵の後、卵や孵化後間もない幼虫を長期間保護しますが、地面の石をどかした時に、その様子を見られることがあります。黒色のハサミムシとヒゲジロハサミムシは翅がありませんが、茶褐色で大きな鋏を持つオオハサミムシには小さな翅が付いています。

モリチャバネゴキブリは自然の中に棲んでいて、屋内には入りません。幼虫は艶のある黒色、成虫は淡褐色で、屋内に棲むチャバネゴキブリと大きさも形もよく似ています。下草のあるところにい

て、足が速いのは屋内のゴキブリ同様。卵鞘という入れ物に 30~40 卵を産卵しますが、孵化するまで卵鞘を腹の先端に付けたままでいます。

最後に蛾の仲間から珍しいものを。クロハネシロヒゲナガは体長 6~7 mm 程度の小さな蛾ですが、触角が体長の 5 倍位(雄の場合)もあります。5 月ころ、川沿いの草原などで長い触覚を揺らしながらゆっくり飛ぶのが見られます。

トリバガ科の仲間は開張 15~20 mm、細長い胴体と細い棒状の翅で、足には大きな棘があります。止まった時に翅と胴体で T 字型になります。結構いるのですが、あまり知られていません。細い翅で模様がわかりにくく種の同定は難しいです。

ハサミムシ目とゴキブリ目



ハサミムシ



卵を保護するハサミムシ



ヒゲジロハサミムシ



オオハサミムシ



モリチャバネゴキブリ成虫



モリチャバネゴキブリ幼虫



クロハネシロヒゲナガ



ブドウトリバ



トリバガ科の一種

巨樹との出会い

《 2 》 志木市の巨樹たち・・・その6

本間 敏文

宝幢寺の巨樹巡りも終わり、次に本町2丁目にあります。敷島神社の巨樹を見に行きましょう。

敷島神社は明治40年に無格社の浅間神社に、宇市場の村社の村山稻荷神社・星野稻荷神社と無格社の水神社の三社を合祀し、社名を敷島神社と改めて設立したとされています。

さて、この神社には2本の巨樹があります。まずはクスノキの巨樹を見てみましょう。このクスノキは本殿横の外堀の内側に立っており、全体が見えないのが残念です。



【敷島神社のクスノキ】

幹周りは3.5mと小粒なるも、特に欠損もなく、健全度は良好です。

ところで、クスノキを漢字で書くと、「楠」と書かれる方が多いようですが、「樟」の方が正しいです。「楠」は中国でタブノキとなり別種の樹となります。クスノキと言えば、日本一の巨樹はクスノキです。鹿児島島の蒲生神社にあります。樹高30m、幹周り24.2mと堂々たる巨樹です。また、推定樹齢も1600年と長寿な樹です。

また、日本における巨樹のベストテンには、このクスノキが9本もランクされており、成長が早く、そして性質が丈夫だと言えます。

ところで、ご存知の方も多いとは思いますが、クスノキから樟脳が採れます。

かつては、セルロイドを製造する際に、重要な原料として使われていました。現在では松脂から採れるテレピン油から合成されていますが、当時はクスノキを原料とする天然樟脳が主流で、世界の生産国が我が日本でありました。

また、樟脳と言えば、防虫剤としての用途が一番に思い出されるが、かつては強心剤（カンフル剤）として広く用いられていました。この樟脳の製造は薩摩藩が行っていました。当時の日本の輸出品でも上位にあり、ヨーロッパで使用されるカンフル剤はすべて薩摩カンフルでした。このような背景もあり、樟脳によって上げた資金によって明治維新がなされたといっても過言ではないと思います。

編集後記

◇今回は、緊急事態宣言発出の為、殆どのイベントが中止となりました。志木の自然観察（冬）については、柳瀬川の近況報告としました。里山の手入れと観察については、イベントの少ない冬号で掲載させていただきました。志木の昆虫記は今回を以って終了となります。ありがとうございました。（青木明雄）

エコシティ志木通信

第101号 2021年3月1日

〈発行〉

NPO法人エコシティ志木

〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108

電話/FAX 048-471-1338 (天田真)

URL <http://kappa-no.net/eco-shiki/>

E-mail eco-shiki@ff.e-mansion.com